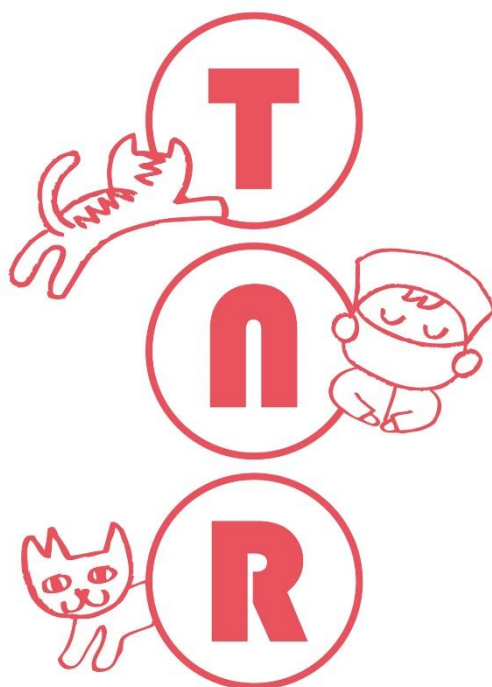


# 男木島ごとさくらねこTNRプロジェクト 実施報告書



doubutukikin since 1988

**主 催**：公益財団法人どうぶつ基金  
**共 催**：男木地区コミュニティ協議会  
**共 催**：NPO法人 BONにゃん  
**期 間**：平成27年6月1日～2日（手術日）

## 香川県の現状

平成26年度環境省調べのデータによると、香川県は年間1,877頭の猫を殺処分しており、殺処分数は、全国ワースト19位に位置する。

自治体名	猫									
	引取り数				処分数					
	飼い主から		所有者不明		返還数	返還数のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数のうち 幼齢個体	殺処分数	殺処分数のうち 幼齢個体
	成熟個体	幼齢個体	成熟個体	幼齢個体						
香川県 (高松市を除く)	51	0	1,060	288	4	0	124	16	1,269	246
高松市	34	14	280	332	6	0	44	0	608	346
合計	85	14	1,340	620	10	0	168	16	1,877	592

## 瀬戸内の島、男木島

瀬戸内海にある男木島（香川県高松市男木町）は、高松港から約35分ほど沖合に位置し、周囲4km、人口200人に満たない小さな島です。その大部分が山地であり平地がほとんどありません。そのため民家は島の南部の男木港周辺の斜面に密集して建ち並んでおり、その民家の間をまるで迷路のように細い坂道が入り組むといった独特の景観が特徴的です。また、瀬戸内の島々を会場にして3年に一度開催されている現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」に初回の2010年から参加しており、華やかなアート作品で島が彩られています。現代アートとの融合や新しくもホッとするような懐かしさを感じることができます。

©2013 男木地区コミュニティ協議会 HPより引用



## 男木島状況（申請時）

男木島は、2013年に動物写真家に紹介されたことをきっかけに、猫島として全国的に有名になり多くの観光客が訪れるようになった。そういった状況下で、香川県で猫のTNRや保護、里親探し活動を行う「NPO法人BONにゃん」に、猫好きの観光客から「男木島の猫の状態が悪い」「飢えていて可哀想」「どうにかならないか」といった問い合わせが多く寄せられるようになった。その反面、島では猫が漁師の網を破る、トウモロコシの芽を齧る、畑で糞尿をする、盛りの声がうるさいといった被害の苦情が男木地区コミュニティ協議会に相次いでいた。

対応に困った男木地区コミュニティ協議会は、視察に来島したNPO法人BONにゃんに相談し、猫の健康状態の改善と全頭（推定200頭）への不妊手術を実施することを決定。どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業、出張手術」に申請を行った。



怪我をしているオス（写真左上）や、栄養状態が悪く弱っている猫が多い。

手術会場には、男木島旧保育園を利用した。手術会場として利用できるようにするために、実施1ヶ月ほど前からBONにゃんとコミュニティ協議会木場会長による大掃除が行われた。会場には、衛生管理のため、ビニールシートを張り巡らせている。



男木島旧保育園（外観）



会場内



手術会場の軒下に捕獲した猫を保管。  
夜間は、会場内に入れイノシシ対策とした



会場は急こう配の山の手にあるため、農作業用の小型特殊自動車（小型特殊自動車）が猫の運搬に活躍した

## 捕獲器・ケージ使用台数

所持者	捕獲器	ケージ
どうぶつ基金	200台	10台

# スケジュール

doubutukikin

## 5月30日 (月)

17:00	捕獲
-------	----

## 5月31日 (火)

06:00	捕獲
-------	----

13:00	会場設営
-------	------

17:00	捕獲
-------	----

## 6月1日 (水)

12:40	獣医師団来島
-------	--------

12:50	会場設営
-------	------

13:15	朝礼
-------	----

13:30	手術開始
-------	------

17:30	手術終了
-------	------

18:00	撤収完了・終礼
-------	---------

## 6月2日 (木)

9:00	朝礼
------	----

9:10	手術開始
------	------

12:10	昼休憩
-------	-----

13:30	手術再開
-------	------

15:30	手術終了
-------	------

16:30	撤収完了・終礼
-------	---------

## 協働人数

日程	どうぶつ基金	男木島	BONにゃん	合計
5月30日	0名	1名	10名	11名
5月31日	スタッフ1名	1名	13名	15名
6月1日	スタッフ3名 獣医師6名 ボランティア3名	1名	15名	28名
6月2日	スタッフ3名 獣医師6名 AHT1名	1名	17名	28名

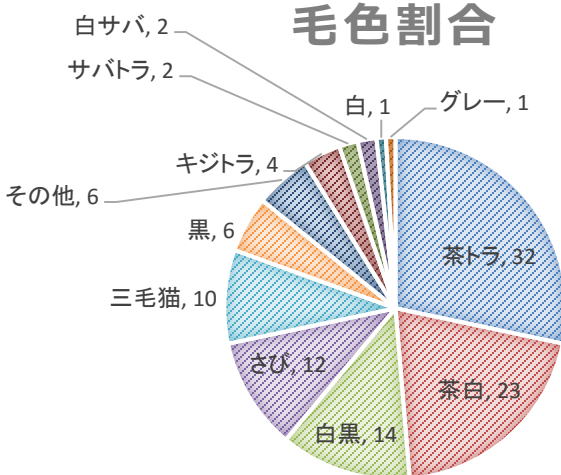
## 手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
6月1日	16	34	0	50
6月2日	50	16	1	67
計	66	50	1	117

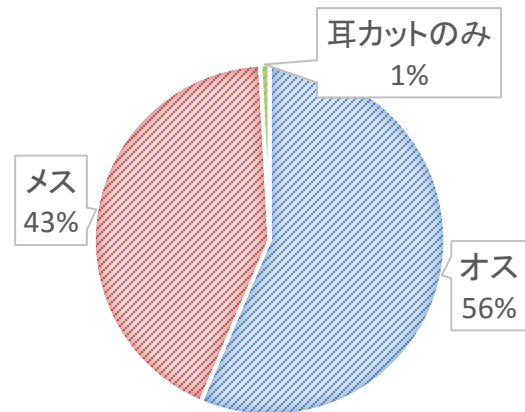
## 処置内容

不妊去勢手術、ノミ・ダニ・回虫の駆除薬（レボリューション）、ワクチン、点眼、補液50cc

### 毛色割合



### オスメス割合



捕獲して



不妊手術をしてサクラ耳カット



元の場所に戻す

## 特別処置

不妊去勢手術に運ばれてきた猫が、怪我や病気を持っていた場合は、できる限りの治療を実施す。



胸部、肩怪我（アブセス・デブリーディレグ）皮下膿瘍・3針縫合  
外傷が多く、去勢手術に加え上記の治療を受けている猫。

## 保護

生後間もないために体重が足りず、手術ができなかった子猫が14頭いた。  
うち、7頭は島で、手術を受けられる大きさまで見守り、時期が来たら不妊手術を行う。のこりの7頭の子猫と、手術を受けた9頭の若い猫、計16頭は、BONにゃんが引き取り、里親探しを行っている。





●山口獣医師長（執刀医）



●稲葉獣医師（執刀医）



●後藤獣医師（執刀医ボランティア参加）



●原田獣医師（ボランティア参加）



●高尾獣医師（ボランティア参加）



●小松獣医師（ボランティア参加）

当プロジェクトの趣旨に賛同し、4名の獣医師がボランティア参加してくださった。





●手術前に全員で朝礼を行う



●男木地区コミュニティ協議会 木場会長



●NPO法人BONにゃん 長町代表



●手術前にケージに管理タグをつける



●安定剤、麻酔を打っていく



●抗生剤やワクチン、ノミダニ駆除を行う  
腕には管理タグがつけられる



● さくら耳カットを行う



● 避妊手術に備えて、お腹の毛刈りをする



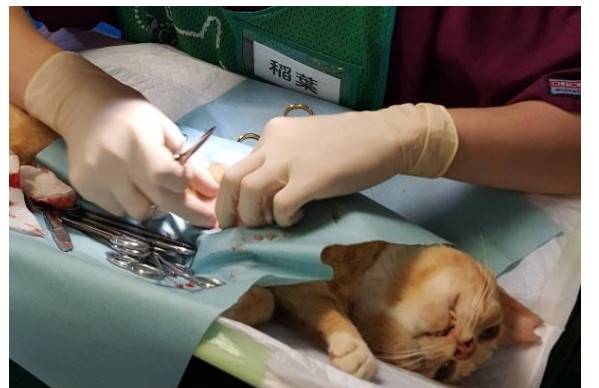
● 不妊去勢手術



● 手術痕は約1cmのエキスパート獣医



● 術後ケアとして、補液や目薬、消毒、  
耳掃除をおこなう



● 怪我や病気が見つければできる限りの  
治療をおこなう



● 1頭ごとに手術器具を洗浄し消毒する



● 猫が手術を受けている間にケージを洗浄



● 術後の猫は一晩安静にする



● 手術翌日、捕獲場所にリターンする



● 手術ができない子猫はBONにゃんが保護し里親探しを行う



● 多くのメディアに取り上げられた

●2016年6月4日 読売新聞



**人間の都合 胸に刻んで**

活動では、妊娠中の猫も対象となった。手術台の上では、大きくなった腹部にメスが入り、捕獲があと少し遅ければ生まれていたかもしれない「命の魂」が取り出されていった。「どこかで線を引かないといけないよ……」。言葉

棄を失った私の横で、手術を手伝っていた同基金の女性スタッフが苦しそうにつぶやいた。観光客らの無責任な餌やりや曖昧な管理状態が続いた結果、大規模な捕獲や避妊手術につながった。

「猫ブーム」「ネコノミクス」といった社会現象の裏には、人間の都合によって失われる命がある。そのことは、ずっと胸に刻んでいたい。(岸田藍)

## 猫の島の幸せ ルール不可欠

### 男木島 2日で117匹避妊手術

男木島(高松市)で1、2両日、毎に暮らす猫117匹に避妊手術が行われた。捕獲しきれなかった猫は、今後発見して手術をいくという。「猫の島」として観光客の人気を集める一方で、島では増えすぎた猫による被害が後を絶たない。住民と猫が幸せに暮らすためには、地域ぐるみでの見守り活動やルール作りが欠かせない。

1日午後、島内の高台にある保戸岡倉庫で、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)が派遣した獣医師らによる避妊手術が行われた。これまでに、漁に使う網を破ら捕獲された、1匹ずつケージに入れられた猫たちは不安そうに鳴き叫びながら、安定剤を打ち込まれる10秒ほどおとなしくなった。

並べた猫に麻酔を注射し、避妊した目印のため耳の先端をV字形にカット、台の上で離はら15分。雄は約30ほどで手術を終え、同基金の佐上邦久理事長(86)は、猫は素

「(布)が土位を始めた。狂犬野防法を巡る地域に行政が捕獲する野良犬と違い、猫は放置され繁殖しやすい。そのため、同課は避妊手術を施して住民が猫などの面倒を見る。地域が団体の推進、高松市を除く市町で、地盤猫活動のモデル地域に指定された自治会などに対し、野良猫手術を14回につき1万円助成している。」

佐上理事長は「手術が完了は終わりにしない。地域活動の裏を住が理解してくれなければ、新たな猫が来て元の状態に逆戻りだと説明する。ふん尿の始末や餌やりといったルール作りや、手術していない猫を見つけた際の対処法の周知徹底が、人間と猫との共生につながっていく」と話した。

「時間はかかるかもしれないが、避妊の結果で住民の見方も変わり、猫が島内外で愛される場になれば、1日間にわたる作業を終え、男木地区コミュニティ協議会の木場健一会長(88)は希望を語った。

THE YOMIURI SHIMBUN

## 読売新聞

2016年(平成28年) 6月4日 土曜日

●2016年6月3日 毎日新聞

MAINICHI

# 新毎日

6月3日(金)

2016年(平成28年)

発行所: 大阪市北区梅田3丁目4番5号  
 〒530-8251 電話(06)6345-1551  
 毎日新聞大阪本社

## 不妊手術で猫と共存目指す



猫の島として知られる男木島(高松市男木町)で1、2日、猫の増加を防ぐための不妊手術が1百匹あった。6人の獣医や高松市の動物保護団体メンバーが協力し、猫を次々と捕獲し、手術していった。また、男木地区コミュニティ協議会は猫をテーマにしたアートプロジェクトを進める。木場健一会長(88)は「手術は猫人の共生を目指す第一歩」と話した。

200匹以上の猫が住む男木島では、ふん尿農作物の食い荒らしなどの被害が相次ぎ、島民や観光客から苦情が出ていた。協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BOON(ぶ)ん(財)団理事代表に相談し、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)の援助を受けて不妊手術が実現した。

獣医やスタッフらは島に泊まり込み、3日までの予定で、全ての猫を対象にした手術を始めた。1日には旧保育所の空き家で、手術を受けられる猫が暮らされた。同猫に手術を繰り返さないよう、手術をした猫は目印として左耳にV字の切り込みを入れ、麻酔を打っているため、痛みは感じないという。手術後の猫は安静な状態で見守られ、元の場所に戻された。2日間で計117匹の猫の手術

### 男木島アートプロジェクトも

協議会やどうぶつ基金は、猫をテーマにしたアートプロジェクトも始めた。猫居場所となる「猫ハウス」や、猫屋敷のオープンも設置するという。どうぶつ基金の佐上邦久・理事長(86)は「200匹の猫が島民と共に暮らす風景そのものがアート作品になる。猫の問題を解決し、世界で一番、猫に優しい島にしたい」と願った。

を終えた。3日午手術をせす、捕獲できなかった猫については今後、も継続して捕獲、手術をしていくという。一連の様を見守っていた木場さんは、猫の増加が被害につながるが、猫を嫌う島民も出てくる。でもこの島で猫と人間は切っても切れない。手術を機に、島民も猫も観光客もみんなが幸せになることができればいい」と話した。

●2016年6月1日 四国新聞



●2016年5月26日 読売新聞



●2016年5月25日 読売新聞

THE YOMIURI SHIMBUN  
2016年(平成28年) 5月25日 水曜日

## 読売新聞

2016年(平成28年)5月25日(水曜日) サマ リ 言葉 堂

(朝日新聞朝刊参照)

### 猫の島 増えすぎた

#### 高松男木島 全200匹 避妊手術へ

住民約180人の島に猫約200匹が暮らす。「猫の島」呼ばれる瀬内海の男木島(高松市)で6月1、2日、島内のすべての猫に避妊手術が施される。近年の猫ブームに乗って観光客を集める一方、増え続ける猫に農作物荒らされる被害なども相俟いでおり、地域ぐるみで猫を管理する「地域猫」活動で共生を目指すことになった。(松田慶)



猫のおかげで観光客はずいぶん増えただけで、迷惑を被る島民も増えたんだよ。今月6日、稼げる島内の食料で観光客向けの調理に追われていた村長が、又子又孫が、複雑な表情を見せた。島民の主な収入源は漁業や農業で、猫は古くからネズミなどの害獣を駆除するとして重宝されてきた。ところが数年前、テレビ番組などで島の猫が取り上げられて以来、観光客が島にまで訪れるようになった。猫も急増した。今は猫が目当ての観光客が多いので、数千人訪れるという。この間、猫のふん尿による悪臭の苦情が増えたほか、農作物が荒らわれたり、漁師の網を破られたりとする被害も深刻化。島民が今年4月、殺処分ゼロを掲げ、地域猫活動を始めることになり、猫を飼う人(どうぶつ基金)や兵庫県庁舎に支援を依頼した。同基金は、地域の野良猫に避妊手術を施したうえで、住民に猫の健康管理を

「地域猫」活動 野良猫に避妊手術を施したり、住民が地域の世話を担ったりする。1800年代から各地で広がり、民間団体の活動費や避妊手術費用を賚助する自治体もある。こうした活動を背景に、2014年度に殺処分された猫は全国で7万9445匹で、1974年に統計を取り始めて最低となった。そして、もう活動を進めておる三島町や静岡県熱海市など全国9か所を実施。今回も獣医師5人を島に派遣して手術にあたり、猫の健康診断や「ミタニ」の駆除も行う。費用は基金が負担する。

「共生を目指す」  
地元住民でつくる「男木島どうぶつ基金協議会」の本場村、会長は「猫を増やしすぎた人間であつて、猫に罪はない。猫と人間が共生できるまで、島を救って取り組みを成功させたい」と語る。

●2016年5月25日 朝日新聞

## 島の猫 200匹不妊手術へ

### 人口180人の男木島

瀬戸内海にはたさんの猫が暮らす「猫の島」が点在する。そのうちのひとつ、男木島(高松市)で6月、島のすべての猫に不妊手術をするところになった。増え続ける猫の苦情が住民から相次いだため、頭数を抑え、住民との共存をめざす。

男木島の人口は約180人。猫はほとんど増えた。今年0匹と推定されている。春、捨て猫の調査をした。高松市のNPO「BON」にやん、の仲介で、殺処分を減らす目的で猫の不妊手術を取り組み公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市)に協力を依頼。無償で手術を受けた。島に派遣された獣医師が6月1日から3日間、島に滞在することになった。不妊手術後は、決められた場所で住民が与えるエサを食べ、協議会の本場村(松田)は「猫を迷惑から守ることは、猫への責任として、猫への話」

漁港に集まった猫＝高松市の男木島

観光客・苦情ともに増え ■「頭数抑え共存を」

2016年(平成28年) 5月25日 水曜日

# 朝日新聞

朝日新聞大阪本社  
〒530-8211 大阪府豊中2-82-3-18  
電話 06-6231-9131 www.asahi.com

●2016年5月18日 毎日新聞

## 猫の島 200匹不妊手術へ

### 香川・男木島 増えすぎで



「猫の島」として有名になった香川県の男木島で、野良猫が増えすぎたため、全ての猫に不妊手術をすることになった。瀬戸内海に浮かぶ島に住む猫の総数は、人口約180人を上回る200匹以上。ふん尿や農作物の食い荒らし、漁網を破るといった被害が続き、島民や観光客から苦情が相次いでいる。地元の男木地区コミュニティ協議会が理事会で手術を決め、6月から高松市の動物愛護団体が取りかかる。

協議会によると猫は十数年前から徐々に増え、インターネットを通じて知られるようになった。約3年前に著名な写真家が著書で紹介してからは、猫目当てで島を訪れる人も増えた。観光客らが餌をやることで繁殖がさらに進み、被害が増え始めた。やせ細り、病気の猫も目立つという。

協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BONにゃん」（長町満里子代表）に相談。猫の増加を防ぐため、理事会の全員一致で不妊手術の受け入れを決めた。猫の不妊手術を担う公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）が資金を援助。3人の獣医が6月1日から島を訪れ、ノミ・ダニの駆除や健康診断も行う。

協議会の木場健一会長（68）は「猫に罪はなく、増やした人間に責任がある。これ以上増やせないが、今いる猫の命と健康を守りたい」と話している。【伊藤暹】

観光客の人気になっている男木島の猫  
—2015年8月1日、玉木達也撮影



●2016年5月18日 Yahooニュース/毎日新聞

headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160517-00000008-mai-soci

**YAHOO! JAPAN** ニュース IDでもっと便利に新規取得 ログイン

キーワードを入力 ニュース 🔍 +

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 ビジネス 特集

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

### <猫の島> 200匹不妊手術へ 香川・男木島、増えすぎで

毎日新聞 5月17日(火)7時0分配信

🐦 📘



「猫の島」として有名になった香川県の男木（おぎ）島で、野良猫が増えすぎたため、全ての猫に不妊手術をすることになった。瀬戸内海に浮かぶ島に住む猫の総数は、人口約180人を上回る200匹以上。ふん尿や農作物の食い荒らし、漁網を破るといった被害が続き、島民や観光客から苦情が相次いでいる。地元の男木地区コミュニティ協議会が理事会で手術を決め、6月から高松市の動物愛護団体が取りかかる。

協議会によると、猫は十数年前から徐々に増え、インターネットを通じて知られるようになった。約3年前に著名な写真家が著書で紹介してからは、猫目当てで島を訪れる人も増えた。観光客らが餌をやることで繁殖がさらに進み、被害が増え始めた。やせ細り、病気の猫も目立つという。

協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BONにゃん」（長町満里子代表）に相談。猫の増加を防ぐため、理事会の全員一致で不妊手術の受け入れを決めた。猫の不妊手術を担う公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）が資金を援助。3人の獣医が6月1日から島を訪れ、ノミ・ダニの駆除や健康診断も行う。

協議会の木場健一会長（68）は「猫に罪はなく、増やした人間に責任がある。これ以上増やせないが、今いる猫の命と健康を守りたい」と話している。【伊藤暹】

## ● 2016年6月4日 ヨミウリオンライン



### 「猫の島」で117匹に避妊手術…妊娠中も対象

2016年06月04日 08時10分



避妊手術を施される島の猫たち(高松市の男木島で)

男木島(高松市)で1、2両日、島に暮らす猫117匹に避妊手術が行われた。

捕獲しきれなかった猫は、今後発見して手術をしていくという。「猫の島」では観光客からの人気を集める一方で、島では増えすぎた猫による被害が後を絶たない。住民と猫が幸せに暮らしていくには、地域ぐるみでの見守り活動やルール作りが欠かせない。

1日午後、島の高台にある保育園跡で、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)が派遣した獣医師らによる避妊手術が行われた。捕獲され、1匹ずつケージに入れられた猫たちは不安そうに鳴き続けたが、安定剤を打ち込まれると10秒ほどでおとなしくなった。

並べた猫に麻酔を注射し、避妊した目印のため耳の先端をV字形にカット。台の上で、雌は5〜15分、雄は30秒ほどで手術を終えた。同基金の佐上邦久理事長(56)は「猫は繁殖力が強い。止めるなら、集中的な手術が必要になる」と力を込めた。

島では、猫に農作物を荒らされたり、漁に使う網を破られたりして猫に不快感を持つ人が増えた。まだ発見されていない猫が約80匹いると見込まれ、住民らが同基金と協力しながら見つけ、手術を施していく。

県生活衛生課によると、県内で2015年度に寄せられた猫に関する苦情は1622件。餌、主不明の問い合わせや保護依頼以外では、「放し飼」(111件)「ふん尿被害」(76件)が上位を占めた。

狂犬病予防法などを根拠に行政が捕獲する野良犬と違い、猫は放置され繁殖しやすい。このため、同課は避妊手術を施して住民らが餌などの面倒を見る「地域猫」活動を推進。高松市を除く市町で、地域猫活動のモデル地域に指定された自治会などに対し、野良猫の手術代を1匹につき1万円助成している。

佐上理事長は「手術をすれば終わりじゃない。地域猫活動の意義を住民が理解してくなくていい。新たな猫が来て元の状態に逆戻りだ」と説明する。ふん尿の始末や餌やりといったルール作りや、手術していきい猫を見つけた際の対処法の周知徹底が、人間と猫との共生につながるという。

「時間はかかるかもしれないが、避妊の効果で住民の見方も変わり、猫が島内外で愛される島になれば」。2日間にわたる作業を終え、男木地区コミュニティ協議会の木場健一会長(68)は希望を語った。

#### ◆人間の都合 胸に刻んで

活動では、妊娠中の猫も対象となった。手術台の上では、大きくなった腹部にメスが入り、捕獲があと少し遅ければ生まれてしまったかもしれない「命の塊」が取り出されていた。

「どこかで線を引かないといけない……。言葉が失った私の横で、手術を手伝っていた同基金の女性スタッフが苦しそうにつぶやいた。観光客らの無責任な餌やりや曖昧な管理状態が続いた結果、大規模な捕獲や避妊手術につながった。

「猫ブーム」「ネコミクス」といった社会現象の裏には、人間の都合によって失われる命がある。そのことは、ずっと胸に刻んでいたい。(岸田藍)

2016年06月04日 08時10分 Copyright © The Yomiuri Shimbun

## ● 2016年6月3日 毎日新聞オンライン



### 男木島

### 不妊手術で猫と共存目指す アートプロジェクトも /香川

毎日新聞 2016年6月3日 地方版

動物 > 香川県 > ライフ >



手術を終えた猫を元の場所に返す木場さん(左)と佐上さん=高松市男木島で、公益財団法人「どうぶつ基金」提供

「猫の島」として知られる男木島(高松市男木町)で1、2日、猫の増加を防ぐための不妊手術が一斉にあった。6人の獣医や高松市の動物愛護団体メンバーらが島に渡り、猫を次々と捕獲して手術していった。また、男木地区コミュニティ協議会は猫をテーマにしたアートプロジェクトを進める。木場健一会長(68)は「手術は猫と人の共生を目指す第一歩」と話した。【待島航志】

200匹以上の猫が住む男木島では、ふん尿や農作物の食い荒らしなどの被害が相次ぎ、島民や観光客から苦情が出ていた。協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BONにゃん」(長町満里子代表)に相談し、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)の援助を受けて不妊手術が実現した。

獣医やスタッフらは島に泊まり込み、3日までの予定で、全ての猫を対象にした手術を始めた。1日には旧保育所の空き家で、手術を受ける猫が寝かされた。同じ猫に手術を繰り返さないよう、手術をした猫には印として右耳にV字の切り込みを入れていく。麻酔をしているため、痛みは感じないという。手術後の猫は安静な状態で見守られ、元の場所に

戻された。

2日間で計117匹の猫の手術を終えた。3日は手術をせず、捕獲できなかった猫については今後も継続して捕獲、手術をしていくという。一連の様子を見守っていた木場さんは「猫の増加が被害につながり、猫を嫌う島民も出てくる。でもこの島で猫と人は切っても切れない。手術を機に、島民も猫も観光客もみんなが幸せになることができればうれしい」と話した。

協議会やどうぶつ基金は、猫をテーマにしたアートプロジェクトも始めた。猫の居場所となる「猫ハウス」や、招き猫のオブジェも設置するという。どうぶつ基金の佐上邦久・理事長(56)は「200匹の猫が島民と共に暮らす風景そのものがアート作品になる。猫の問題を解決し、世界で一番、猫に優しい島にしてほしい」と願った。



## ●2016年5月25日 ヨミウリオンライン

www.yomiuri.co.jp/osaka/news/20160525-OYO1T50018.html

YOMIURI ONLINE

ホーム ニュース 深読み 発言小町 医療 読売新聞から

トップ ニュース 企画・連載 近畿地方の天気 読売新聞大阪本社から

関西発 ニュース 文字サイズ 小 中 大

### 猫の島増えず、全200匹避妊手術へ…男木島

2016年05月25日

住民約180人の島に猫約200匹が暮らし、「猫の島」と呼ばれる瀬戸内海の男木島(高松市)で6月1、2両日、島内のすべての猫に避妊手術が施される。近年の猫ブームに乗って観光客を集める一方、増え続ける猫に農作物が荒らされる被害なども相次いでおり、地域ぐるみで猫を管理する「地域猫」活動で共生を目指すことになった。(岸田藍)

「猫のおかげで観光客はすいぶん増えたんだけど、迷惑を被る島民も増えたよ」。今月21日、経営する島内の食堂で観光客向けの調理に追われていた村上キヌ子さん(84)が、複雑な表情を見せた。

島民の主な収入源は漁業や農業で、猫は古くからネズミなどの害獣を駆除するとして重宝されてきた。

ところが数年前、テレビ番組などで島の猫が取り上げられて以来、観光客が島に来て餌を与えるようになり、猫も急増した。今は猫目当ての観光客が多い日で数十人訪れるという。

この間、猫のふん尿による悪臭の苦情が増えたほか、農作物が荒らされたり、漁師用の網を破られたりする被害も深刻化。島民が今年4月、殺処分ゼロを掲げて「地域猫」活動に取り組む公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)に対策を依頼した。

同基金は、地域の野良猫に避妊手術を施したうえで、住民に猫の健康を管理してもらう活動を進めており、昨年は竹島(鹿児島県三島村)や静岡県熱海市など全国9か所で行った。今回も獣医師5人を島に派遣して手術にあたるほか、猫の健康診断やノミ、ダニの駆除も行う。費用は基金が負担するという。

「共生目指す」

地元住民でつくる「男木地区コミュニティ協議会」の木場健一会長は、「猫を増やしたのは人間であって、猫に罪はない。猫と人間がうまく共存できるよう、島を挙げて取り組みを成功させたい」と語る。

2016年05月25日 Copyright © The Yomiuri Shimbun

## ●2016年5月24日 朝日新聞デジタル

www.asahi.com/articles/ASJ5K66FHJ5KPLXB00Y.html

朝日新聞 DIGITAL

トップニュース スポーツ カルチャー 特集・連載 オピニオン

新着 社会 政治 経済・マネー 国際 テック&サイエンス 環境・エネルギー 地域 朝日ビジネス

朝日新聞デジタル 記事

### 瀬戸内海「猫島」、全200匹に不妊手術へ 人口上回る

細川治子 2016年5月24日 11時40分

シェア ツイート B! ブックマーク メール 印刷

0 0



瀬戸内海にはたくさんの猫がすむ「猫島」が点在する。そのうちのひとつ、男木(おぎ)島(高松市)で6月、島のすべての猫に不妊手術をすることになった。増えた猫への苦情が住民から相次いだため、頭数を抑え、住民との共存をめざす。

ネコ好きのあなたへ →  
猫の写真いっぱい、ギャラリーはこちら →

男木島の人口は約180人。猫はこれを上回る200匹と推定されている。

島には2、3年前から猫目当ての観光客が目立つようになった。動物写真家の紀行番組や本に登場したのがきっかけという。同じ頃、島の男木地区コミュニティ協議会に「猫を何とかしてほしい」との苦情も寄せられるようになった。畑の作物をかじったり、漁網を食いちぎったりする被害も報告されている。

協議会は保健所と協力して島のあちこちに猫への餌やり禁止を呼びかける貼り紙を出したが効果は薄く、猫はどんどん増えた。今年春、殺処分を減らす目的で猫の不妊手術に取り組む公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市)に協力を依頼。無料手術をする獣医師が6月1日から3日間、島に派遣されることになった。

不妊手術後は、決められた場所で住民が餌を与えるようにする。協議会の木場健一会長(68)は「猫を迷惑がるのではなく共存する島としてPRしたい」と話している。(細川治子)



### 【TV報道】

- KTS瀬戸内海放送
- RSK山陽放送
- RNC西日本放送
- NHK高松放送局
- OHK岡山放送

男木島ごとさくらねこTNRプロジェクト第1回目の出張手術は、男木地区コミュニティ協議会木場会長と、NPO法人BONにゃん、ボランティア参加して下さった獣医師やAHT方々の尽力により、無事終了した。今回、手術ができなかった子猫や、捕獲漏れの猫は、どうぶつ基金と、男木島、BONにゃんの協働の元、全頭をさくらねこにするまでTNRを継続していく。

また、現代アートと猫を目当てに国内外から訪れる多くの観光客に、

“さくらねこ”は、“不妊手術済み”であること、“さくらねこ”は、“愛されている猫”であること、“男木島”は、“世界一ねこにも人にもやさしい島”になろうとしていること

を、広く広報していく必要がある。そこで、「男木島+さくらねこ+アート=世界一ねこにやさしい島」と題した活動も展開していく予定である。





公益財団法人どうぶつ基金  
男木地区コミュニティ協議会  
NPO法人 BONにゃん